

中国語の談話連結語“不过”の手続き的意味：関連性理論による分析

秋山，咲貴子
九州大学大学院地球社会統合科学府：博士課程

<https://doi.org/10.15017/7386757>

出版情報：地球社会統合科学. 32 (1), pp.13-21, 2025-09-16. Graduate School of Integrated Sciences for Global Society, Kyushu University

バージョン：

権利関係：© 2025 AKIYAMA Sakiko



中国語の談話連結語“不过”の手続き的意味

— 関連性理論による分析 —

Procedural Meanings of Chinese Discourse Connectives *Buguo*: A Relevance-Theoretic Approach

2025年5月14日提出, 2025年6月30日受理

秋山咲貴子¹

Sakiko AKIYAMA

キーワード: 談話連結語、“不过”、関連性理論、手続き的意味

要 旨

本研究は、現代中国語の談話連結語“不过”について、認知語用論の観点から考察するものである。従来の記述的アプローチの研究では、“不过”の語用論的機能はある程度明らかにされてきたが、それらの機能が発話解釈の過程でどのように生じるのかについては十分に検討されてこなかった。

本研究では、関連性理論の枠組みを用いることで、張(2014)が分類した“不过”に見られる話題転換、注目集め、話題維持といった語用論的機能に関わる“不过”の一義的な手続き的意味を分析することを試みた。その結果、“不过”の手続き的意味は認知効果への制約として、「“不过”に後続する発話から引き出される想定が、先行命題から引き出される想定の一部と矛盾し、その想定を削除せよ」というものであることがわかった。“不过”は、このような認知的操作を通じて、発話解釈における推論の方向を調整することが明らかになった。

1. はじめに

本研究は、周・邹(2011)の研究を踏まえつつ、中国語の談話連結語(discourse connective)¹である“不过”の手続き的意味(procedural meaning)に関する分析を再検討し、定義づけることを目的とする。

中国語の“不过”は逆接を表す表現とされており、呂(1999)の文法解説書『現代汉语八百词』では次のように説明されている。

不过bùguò〔接〕逆接を表す。“但是”よりも軽い。口語でよく使われる。a) 前文を補足し修正する意味で使われる；只是、b) 前文と対立する意味を補足する。(呂1999: 99、筆者訳)。

上記の説明から、“不过”は逆接の意味を持ち、使用される際にはa) やb) の機能を果たしていることがわかる。

しかし、解説に挙げられている他の逆接表現である“但是”や“只是”との違いは判然としない。とりわけ、“但是”については、逆接程度に関する記述に留まっており、それ以外の違いは不明瞭である。このように、文レベルだけの記述では本質的な手続き的意味を特定するのは困難である。

一方、発話レベルにおいて、認知的観点から“不过”の意味を明らかにしようとした周・邹(2011)の分析は、関連性理論(Sperber & Wilson 1986/1995)の枠組みに基づき、従来の研究では十分に説明されてこなかった“不过”の用法を、他の逆接表現である“但是”や“只是”との比較を通じて浮き彫りにした点で注目される。しかしながら、同研究においては依然として解釈上の問題が残されている。なお、当該先行研究における具体的な問題点については、第3節において詳述する。

本論文は以下の構成から成る。第1章では、研究の背景と目的について述べる。第2章では、“不过”に関する

¹ 九州大学大学院地球社会統合科学府、博士課程

先行研究を「記述的アプローチ」および「関連性理論による理論的アプローチ」という二つの視点から整理する。続く第3章では、周・邹（2011）の議論における問題点を検討する。第4章では、“不过”の手続き的意味について筆者自身の分析を提示する。最後に、第5章において本研究の成果をまとめる。

2. “不过”に関する2つのアプローチ

2.1 記述的アプローチ

“不过”の意味に関する研究は、これまで主に記述的アプローチに基づき検討されてきた。それらの研究において明らかにされた諸意味の中には、『現代汉语八百詞』に記載される「補足と修正」と「対立的補足」の両者に部分的に該当する用法もある。次の表1は呂（1999）の用法にしたがい、記述的な先行研究における分類をまとめたものである。

記述的研究において、金・金（2001）は、逆接の接続詞の種類は大きく「逆接」と「補充、修正、制限」と分けられるが、“不过”は二側面にまたがるため、その語気はより婉曲的であると述べている。王（2007）は、“不过”が「強い逆接」と「弱い逆接」の両機能を持つと指摘しており、強い逆接では前後の意味の対立を示す一方で、弱い逆接では前半を肯定しつつ後半で補足・修正を行うと説明している。一方、史・孙（2010）の研究では、逆接表現に関する分類に基づき、“不过”は前件からある結論が推論されうるにもかかわらず、後件がその推論に反する事実を提示するタイプの逆接を表す因果違逆型や、後件が前件の内容に対して制限を加えたり、補足説明を行ったり、追加の条件を提示したりすることによって成立する逆接を表す制限補充型の意味を持つと述べ、逆接の強さは、正反対立型＞因果違逆型＞制限補充型の順に強くなり、「因果違逆型」では“但是”の方が“不过”よりも逆接の強度が高いとされる。さらに、张（2014）は“但是”，“可是”，“不过”が文脈依存的に多様な談話連結語として機能することを論じ、“不过”は頻繁な使用により

逆接の意味が希薄化し、主に話題転換、注目集め、話題維持といった語用論的機能を持つようになったと分析している。

これらの先行研究から、“不过”は単なる逆接を示すだけでなく、その逆接の強度がコンテキストによって異なり、また、現代においてはさまざまな談話機能を果たすことがわかっている。

2.2 関連性理論による理論的アプローチ

記述的アプローチは、語の意味や用法を主に表層的に列挙・分類することにとどまる傾向があり、その使用がいかにして成立するのかという認知的・語用論的プロセスは十分に検討されない場合が多い。これに対して、理論的アプローチは、言語使用の背景にある認知メカニズムや推論過程を体系的に説明し、語の意味や機能がどのようなコンテキストの要因によって動的に変化、調整されるのかを明らかにすることができる。そのため、表層的分析にとどまることなく、語の本質的な意味解釈のプロセスを解明することができる。したがって、言語表現の意味を分析、説明する場合は理論的アプローチが適していると言える。

語用理論のひとつにSperber & Wilson（1986/1995）の関連性理論（Relevance Theory）がある。関連性理論において、言語によるコード化の過程は推論的処理のための入力情報を提供する過程である。発話は本質的に概念あるいは概念的情報、またはそれらの解読過程を指示する手続き的情報を符号化していると考えられている（Wilson & Sperber 1993：9）。本論文で考察の対象とする談話連結語は、後者の手続き的情報を担う言語表現であり、先行する発話とそれに続く談話連結語によって導かれる発話との間に成立する推論的關係を明示的に示し、聞き手の解釈過程における推論の道筋を与える言語表現である。

関連性理論において手続き的意味とは、発話解釈において、ある表現が関与する推論的な計算過程をどのように行すべきかを指し示す意味のことである（Blakemore

表1 『現代汉语八百詞』と記述的研究における“不过”の分類

呂（1999）	補足・修正	対立的補足	その他の機能
金・金（2001）	補充・修正・制限	逆接（語気、話題転換を含む）	
王（2007）	弱い逆接	強い逆接	話題転換
史・孙（2010）	制限補充型	因果違逆型	
张（2014）			話題転換・注目集め・話題維持

2003: 4)。このような手続き的意味の枠組みにおいては、語の解釈は語用論的推論に依拠しており、語がコード化する意味は本質的に多義的 (polyprocedural) ではない (Carston 2016: 161)。このような立場から見ると、先行研究が記述的に提示してきた“不过”の多義的用法は、語自体の多義性ではなく、コンテキストに応じた推論の結果として生じる可変的な解釈にすぎない。すなわち、“不过”が担う手続き的意味を定義することで、表1のようなこれまでいくつか分類されてきた用法も、単一の語の意味に基づき一貫して説明することが可能になる。

本研究では、関連性理論を用いて“不过”の手続き的意味の定義を試みている周・邹 (2011) を検討しながら、“不过”の一義的な手続き的意味がさまざまなコンテキストにおいてどのように解釈され、機能するかを体系的に分析する。

3. 周・邹 (2011) およびZhou (2007) の分析

周・邹 (2011) は関連性理論を用いて、“不过”の手続き的意味を以下のように定義している。Aは先行発話、A'は先行発話から引き出された想定、Bは後続発話を表す。

“A (A' ,不过B中) ,转折连词“不过”引导与现时的语境假设部分产生矛盾, 并削弱一语境假设的命题”

(A (A' , 不过B中) という発話において、“不过”は、現時点のコンテキストにおける一部の想定と矛盾し、そのコンテキスト想定を弱める。) ²

これを周・邹 (2011) の例 (1) で説明すると (2) のような発話解釈のプロセスが考えられると述べている。

(1) 在家的時候給家人做做飯, 不过自認做得不如兒子好。

(家族のために自宅で料理を作ることはあるが、自身の料理の腕前については、息子には及ばないと自認している。)

(2) A: 家族のために自宅で料理を作ることはある

A': 話し手は料理が上手だ

B: 自身の料理の腕前については、息子には及ばないと自認している

周・邹は、先行発話 (2A) から、導かれる現時点での想定は (2A') であり、それが後続発話 (2B) と矛盾し、(2A') が弱められていると解説している。さらに、「自分

の腕前は息子ほどではないと思っている」という発話は「話し手は料理が上手だ」という想定を完全に取り消すことができないと述べている。

また、Zhou (2007) の“不过”の手続き的意味の分析においても、「想定を弱める (削弱)」や“contradiction”といった用語を用いて、「命題がコンテキストの想定と矛盾し、その想定を弱めるもの」と定義付けている。しかしながら、弱められる想定の対象や、どのような発話解釈の認知的プロセスを経て行われるのかといった点について具体的な記述が十分とは言えず、提示されている例文の数も限られている。さらに、次節で詳述するように、周・邹 (2011) やZhou (2007) の定義で説明が困難な用例も存在する。

4. “不过”の手続き的意味再考

本節では、とりわけ、周・邹 (2011) が提示する“不过”の手続き的意味の枠組みでは説明が困難な用例を取り上げ、それらの例を可能にする対案を提示する。

張 (2014) などは“不过”の話題転換、注目集め、話題維持といった語用論的機能を指摘している。これらの例は周・邹 (2011) の言う「想定を弱める」という手続きでは説明できないことをまず指摘したい。

まず、話題転換の例 (3) における“不过”の手続きについて考えたい。

(3) [計画経済下の配給制時代を回想している]

你得有粮票, 同时在有粮食剩余的时候才能买到。

如果票用完了, 就算有钱也没办法。什么东西都要票——食物、布、收音机。不过, 我记得我家一直都有电视。(張 (2014: 568))

(食料品を買うにはね、まずは配給切符が必要なのよ。それも、物が余っているときじゃないと買えなかったの。切符を使い切ったら、お金があってもどうにもならない。何を買うにも切符がいるのよ、食べ物にしても、布にしても、ラジオにしてもね。でも、うちはずっとテレビはあった気がするのよ。)

先行発話「何を買うにも切符がいるのよ、食べ物にしても、布にしても、ラジオにしてもね」から (4a-c) のような想定が導かれると考えられ、その中で (4c) のみが削除されていると考えられる³。

(4) a. 計画経済下の時代に日用品を買うためには配給切符が必要であった

- b. 配給切符を手に入れることは簡単ではなかった
 c. ~~計画経済下の時代、テレビを買うことは難しかった~~

先行発話から一般化された制度に関する想定(4a)や(4b)(4c)といった想定も導かれるだろう。ここで“不过”の後続発話「うちはずっとテレビはあった気がするのよ」は、こうした先行想定の一部(4c)「計画経済下の時代、テレビを買うことは難しかった」と矛盾し、(4c)は削除されている。ただし、想定(4a)と(4b)は矛盾し削除されることはない。張(2014)が話題転換として機能していると捉えたのは、日用品の話からテレビの話へと話題が絞られたためであると考えられる。

例(5)は注目集めとされる例である。

- (5) [話し手柔嘉は、自らの結婚生活の不満を語っている。彼女は、友人の女性が夫・老李に不満を持っていることを引き合いに出し、自分も聞き手(自身の夫)に家で孤立していたと訴えている]
 柔嘉笑道：我劝她好几次了，她要帮我，我有什么办法？她说女人全吃丈夫的亏，她自己吃老李的亏——吃生米粽子。不过，我在你家里孤掌难鸣，现在也教你尝尝味道。(張(2014:569))
 (柔嘉は笑いながら言った。私は彼女に何度もやめるように言ったけど、彼女はどうしても私を助けたがって…私はどうしようもなかったのよ。彼女は「女はみんな夫に損させられるのよ」って言って、彼女自身も老李に損させられたって…生煮えのちまきを食べさせられたってさ。でもね、私(柔嘉)はあなたの家では一人じゃ何もできない。今度はあなたにも味わってもらわ。)

先行発話「彼女は『女はみんな夫に損させられるのよ』って言って、彼女自身も老李に損させられたって…生煮えのちまきを食べさせられたってさ」は、話し手の友人の結婚生活に対する不満を引用している。この先行発話から導かれる想定は(6)のようなものであると考えられる。

- (6) a. 友人はその夫から酷い目にあっている
 b. 友人は一人で耐える以外に方法がない
 c. 友人は仕返しをすることができない

“不过”の後続発話「私はあなたの家では一人じゃ何もできない。今度はあなたにも味わってもらわ」は先行

発話の引用をもとに友人の話を通して自分自身の話に移行しており、友人の話から導かれる想定は柔嘉自身にも適用される。後続発話で柔嘉は、これ以上耐えることをやめ、反撃する主体的な立場をとっていることから、先行想定(6b)(6c)と矛盾し、削除される。張(2014)が注目集めとして機能していると捉えたのは、先行想定が削除された結果、後続節が新しい視点を提示しているのだと聞き手に理解されたためであると考えられる。

最後に、話題維持の機能をもつとされている例(7)をみてみよう。

- (7) [北京人の食文化へのこだわりについて、自身の経験を交えて語っている]

反正一般的人认为北京人就是讲究吃，是啊，讲究吃啊，这个礼节挺多的，是啊，这也，这也不见得都是那样儿，不见得都是那样儿。不过北京人吃饭什么的是有点儿，是有点儿爱考究。我，我的感觉。现在一般的人来讲，那条件都好了嘛，是不是啊，都要讲吃比较好一点儿的。(張(2014:569))

(まあ、普通の人とはさ、北京の人って食べ物にうるさいって思ってるじゃない？うん、たしかにこだわるよね。作法とかもいろいろあるし。まあでも、みんながみんなそうってわけじゃないとは思うよ。ただ、北京の人って食事のときとか、やっぱりちょっとこだわるところはあるよね。これは、私の感覚だけだよ。今はさ、誰でもそれなりに生活レベル良くなったから、やっぱりちょっといいもの食べたいって思うんじゃない？)

この例において、先行発話「まあでも、みんながみんなそうってわけじゃないとは思うよ。」から(8a-d)のような想定が導かれると考えられ、後続発話と矛盾し削除されるのは(8b)や(8c)であろう。

- (8) a. 北京人には、一定程度の食や礼儀へのこだわりがある人が多い
 b. ~~北京人の中には、食や礼儀へのこだわりがあまりない人もいる~~
 c. ~~北京人と一緒に食事をとることはそれほど心配することはない~~
 d. 北京人と食事をともにするときは相手を選ぶほうがよい

“不过”の後続発話「北京の人って食事のときとか、やっぱりちょっとこだわるところはあるよね」において、話

し手はあらためて「北京の人には一定の食へのこだわりがある」という評価を述べており、これは先行する想定コンテクストの想定と一部矛盾し、削除される。すなわち、(8b)「北京人の中には、食や礼儀へのこだわりがあまりない人もいる」や(8c)「北京人と一緒に食事をとることはそれほど心配することはない」という想定が削除される。とはいえ、(8a)「北京人には、一定程度の食や礼儀へのこだわりがある人が多い」という社会的認識や(8d)「北京人と食事をとるときの相手を選ぶほうがよい」という文化的イメージの想定は、会話全体を通じて一貫して維持されている。張(2014)によって“不过”が話題維持として機能していると捉えられたのは、“不过”の前後の発話内容は「北京の人の食文化に関する評価」と一貫して話題を維持しており、評価や一般性の調整にとどまっているからであると考えられる。

話題転換の語用論的機能をもつとされた例(3)は実際には話題の絞り込みのように見えると述べた。話題転換の例として、コーパスからの例(9)を見てみよう。

(9) [AとBは恋愛リアリティ番組の放送時間について話している]

A: 小白也牵手了?

(小白も手をつないだの?)

B: 嗯, 今晚大家会看到的。没事, 祝福他们吧。

(うん、今夜みんな見られるよ。大丈夫、ふたりを祝福しよう。)

A: 每周周日也有?

(毎週日曜もあるの?)

B: 周六周日晚10点后。

(土曜と日曜の夜10時以降だよ。)

A: 怪不得我都只看周六晚上上的。读书孩子伤不起。

不过话说回来, 你怎么知道小白牵手了。

(どおりで私、土曜の夜しか見てないから気づかなかったよ。勉強している子はつらいよね。

でも、ところで、小白が手つないだって、どうして知っているの?)

(BCCコーパス)

例(9)において、先行発話では話し手は勉強が忙しかったためにリアリティ番組を欠かさず見ることができないことが述べられているが、後続発話においては番組内の話へと話題が転換している。この例も、周・邹(2011)やZhou(2007)の「先行想定を弱める」という定義により説明することは困難である。“不过”に後続する発話命題の内容が、先行発話と全く異なるため、どのような想定が弱められる対象になるのかわからない。しかし、「後

続発話が先行発話の想定と矛盾し、その一部を削除する」と考えることで“不过”による話題転換の例もうまく説明することができる。

先行発話「どおりで私、土曜の夜しか見てないから気づかなかったよ。勉強している子はつらいよね」からアクセスされる想定(10a-d)を考えてみよう。それらの想定の中で後続発話と矛盾し削除される想定は(10d)であると考えられる。

- (10) a. 話し手Aはその番組の土曜日の回しか見ていない
- b. 話し手Aは学生で、週末の両日もテレビを見るほどの余裕がない
- c. 話し手Aは恋愛リアリティ番組をみたいと思っている
- d. 話し手Aは勉強に忙しい自分の状況について話したいと思っている

“不过”に続く後続発話「ところで、小白が手つないだって、どうして知っているの?」は、話し手Aが少し前に話し手Bに聞いた「小白も手をつないだの?」の話題について、さらに深く知りたいという意図のもとでなされている。そのため、先行発話から引き出される想定を矛盾していたり、それを弱めたりしているのではなく、全く異なる関心の方向に話題が向けられている。「想定の一部(10d)を削除」という説明を行うことで、先行発話により引き出される話題の継続性が一旦打ち切れ、“不过”以降において話題の焦点が「自分が見逃したこと」から「話し手Bがどうやって情報を知ったのか」へ移行していると捉えることができる。

ここで、「想定の一部削除」という“不过”の意味を明らかにするため、“但是”と共起するコーパスからの例(11)を見てみよう。

(11) [AとBはある映画を観た後の感想をやりとりしている]

A: 电影如何?

(映画はどうだった?)

B: 应该算最近上的电影最好看的吧, 但是⁴客观地说来一般般。不过不是很差, 特效不是五毛钱。没有大起大落。这个票价应该算值。

(最近公開された映画の中では一番面白い方だと思うよ。でも、客観的に言えば普通かな。

ただ、そんなに悪くない、特撮も安っぽくはなかった。大きな盛り上がりや落ち込みはなかったけど、このチケット代なら妥当だと思

う。

“但是”の先行発話「最近公開された映画の中では一番面白い方だと思うよ」からは、次の(12)のような想定が導かれ、それと後続発話「客観的に言えば普通かな」が矛盾し、前者が削除されている⁴。

(12) 話し手Bは映画は面白いと思っている

一方、“不过”の先行発話「客観的に言えば普通かな」からは次の(13a-d)のようなコンテキストの想定が導かれ、(13b)と(13c)が削除されると考えられる。

- (13) a. 客観的に言えば、それほどよいとは言えない
b. 他人にはおすすめできないかもしれない
c. 映像や演出の質にも期待しない方がよい
d. 観た価値はあるが強く印象に残る作品ではない

“不过”の後続発話は(13a-d)のコンテキストの想定の一部(13b)「他人にはおすすめできないかもしれない」や(13c)「映像や演出の質にも期待しない方がよい」という一部の想定と矛盾し、それらは削除されていると考えられる。

例(11)の“但是”と“不过”の順番を逆にした場合、母語話者のほとんどが不自然であると判断した。すなわち、“但是”は話し手Bによる主観的評価「映画は面白い」と話し手Bは思っている」と、より客観的とされる評価「普通かな」との間にある意味的な対立を明示する役割を担っており、発話内で逆接の中核的なポイントとして機能している。それに対し、“不过”は、客観的評価の提示に続いて、それが過度に否定的に解釈されることへの懸念から、肯定的側面(特撮の質やチケット代の妥当性)を補足的に加える機能を持ち、評価の調整と聞き手への配慮という語用論的目的を果たしている。このように、“但是”と“不过”はいずれも「矛盾と削除」という手続き的意味を符号化しているものの、それぞれが異なる段階で異なる手続きを符号化している。“不过”は、先行する評価命題を全面的に否定するのではなく、その一部の想定内容と矛盾する形で、想定を限定的に削除している。この点は、“不过”が日本語の「ただ」としばしば訳されることにも対応しており、内田(2012)が指摘するように、「ただ」は聞き手に対する配慮を含意する語用的特徴を有している。

“不过”の「コンテキストの想定の一部との矛盾と削除」という手続きは、大津(2020)が議論した“however”

の手続き的意味とも似ている。大津は、もし、“A but B however C”という逆接の連鎖において“but”と“however”が同じ手続きを符号化しているとすれば、両者は最初の発話を二重に否定することになるため、AとCは同様な命題になるはずだがそうはならないと述べている。例(14)をみてみよう。

(14) [担任を引き継いだ教師が生徒たちへ向けて自身の教育方針を語っている]

I shall do my very best to live up to the standards you were used to under Mr.Philips. **But** I caution you, I'm unfailingly strict about punctuality and attention in class. **However**, I do believe that the best teacher serves as a guide.

例(14)において、“but”は先行発話「これまで慣れ親しんだPhilips先生の教え方を引き継いだ授業を行うように努力する」から導き出される推意「何もこれまでと教え方を変える必要がない」と後続発話「時間励行と授業への集中力の要求」が矛盾し、前者が削除される。一方、“however”は“but”のような「矛盾と削除」ではなく、先行節から派生する他の想定との矛盾の中で先行節の想定を削除するという手続きが符号化されるとされる。すなわち、“but”節の「時間励行と授業への集中力の要求」から派生するその他の想定、例えば「時間励行や集中力を要求するばかりで、生徒を手引きする指導者としての役割を果たさない」といった想定が“however”以下で提示される矛盾関係の中で前者が削除されている。

“不过”には“however”と同様に、単に先行節の想定との矛盾と削除ではなく、先行節から導かれる派生的な他の想定との矛盾のもとで、それらの想定の一部を削除するという手続きが符号化されている。すなわち、先に示した例(3)(5)(7)(9)(11)のように、“不过”は明示的な命題対立よりも、先行する命題から派生される想定の一部に対して削除の操作を行う役割を果たしている。

最後に、筆者の主張する「先行想定の一部削除」という制約で周・邹(2011)の例(1)を説明しよう。

- (1) 在家的时候给家人做做饭, **不过**自认做得不如儿子好。
(家族のために自宅で料理を作ることはあるが、自身の料理の腕前については、息子には及ばないと自認している。)

先行発話「家族のために自宅で料理を作ることはある」

からは (15a-d) のような想定が導かれ、(15c) と (15d) が後続発話と矛盾し削除されると考えられる。

- (15) a. 話し手は日常的に料理をする習慣がある
- b. 話し手は家族に食事を作るという役割を担っている
- c. 話し手は料理が上手だ
- d. 話し手は料理の腕に対して自信がある

“不过” に続く後続発話「自分の腕前は息子ほどではないと思っている」は、(15c) や (15d) のようなコンテキストの想定と一部矛盾し、削除されていると考えられる。一方、(15a)「話し手は日常的に料理をする習慣がある」や (15b)「話し手は家族に食事を作るという役割を担っている」といった想定は後続発話と矛盾せず削除されおらず、保持されている。さらに、本例文における“不过”は、話し手の発話から導かれる肯定的評価（料理が上手・自信がある）という想定の一部を、自己評価の低さによって矛盾させ削除することで、聞き手に対して控えめで謙遜な印象を与えていると解釈することができる。

以上の議論を踏まえて、“不过”の手続き的意味は認知効果への制約として次のように定義付けることができる。

“不过”に後続する発話から引き出される想定が、先行発話から引き出される想定の一部と矛盾し、その想定を削除せよ

これにより、従来の周・邹 (2011) および Zhou (2007) の定義では分析対象とされにくかった用例も説明可能となり、“不过”の一義的な手続き的意味により発話のさまざまな語用論的機能や解釈を包括的に説明できると言える。

5. まとめ

本稿では、“不过”は、認知効果への制約により、「“不过”に後続する発話から引き出される想定が、先行命題から引き出される想定の一部と矛盾し、その想定を削除せよ」という手続きを符号化していることが明らかになった。また、“不过”の手続き的意味を明らかにすることにより、それを含む発話の解釈やさまざまな語用論的機能の認知的プロセスについても説明可能となった。“不过”は、先行発話から導かれる想定の一部の削除といった働きを通じて、発話解釈において聞き手の推論方向を調整する。

本稿では“不过”の手続き的意味のみの分析を行ったが、同じ逆接カテゴリーに属する“但是”や“可是”のみなら

ず、“只是”や“然而”などの手続き的意味を比較・検討することを今後の課題としたい。

謝辞

本研究は、JST次世代研究者挑戦的研究プログラム JPM JSP2136の支援を受けたものです。本研究をまとめるにあたり大津隆広教授には多くのご助言を頂きました。また、査読者の方には多くの有益なご指摘を頂きました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

<英語>

- Blakemore, D. (1987). *Semantic Constraints on Relevance*. : Blackwell.
- Blakemore, D. (2002). *Relevance and Linguistic Meaning: The Semantics and Pragmatics of Discourse Markers*. : Cambridge University Press.
- Blakemore, D. (2003). Re-visiting procedural meaning: 'but', 'however' & 'nevertheless.' *Paper presented at Georgetown University Round Table on Languages and Linguistics (GURT 2003)*.
- Carston, R. (2016). The heterogeneity of procedural meaning. *Lingua*, 175-176, 154-166.
- Carston, R. (2002). Linguistic meaning, communicated meaning and cognitive pragmatics. *Mind & Language*, 17(1-2), 127-148.
- Clark, B. (2013). *Relevance Theory*. Cambridge University Press.
- Fraser, B. (1990). An approach to discourse markers. *Journal of Pragmatics*, 14(3), 383-398.
- Fraser, B. (1996). Pragmatic markers. *Pragmatics*, 6, 167-190.
- Fraser, B. (1999). What are discourse markers?. *Journal of Pragmatics*, 31(7), 931-952.
- Schourup, L. (1999). Discourse markers. *Lingua*, 107(3-4), 227-265.
- Sperber, D. & Wilson, D. (1986/1995). *Relevance: Communication and Cognition*. : Blackwell.
- Wilson, D., & Sperber, D. (1993). Linguistic form and relevance. *Lingua*, 90 : 1-25.
- Zhou, L. (2007) The cognitive role of Chinese connectives in utterance interpretation: A relevance-theoretic approach (Unpublished doctoral dissertation). Nara Women's University, Nara, Japan.

<日本語>

内田諭 (2012) 「ただ」と「ただし」について: 関連性理論を用いた分析. 『ことばを見つめて: 内田聖二教授退職記念論文集』 英宝社 191-201.

大津隆広 (2020) 「談話標識とフィラー」. 辻野裕紀, 大津隆広, 田中俊也 (編) 『連続講義「ことばの科学」2016-2018』 九州大学大学院言語文化研究院 18-43.

<中国語>

金允経, 金昌吉 (2001) 〈現代汉语转折连词组的同异研究〉. 『汉语学习』, (2), 34-40.

吕叔湘 (1999) 『现代汉语八百词』. 商务印书馆.

史金生, 孙慧妍 (2010) 〈“但(是)”类转折连词的内部差异及其形成机制〉. 『语文研究』, (4), 34-40.

王岩 (2007) 〈表示转折关系的“不过”和“就是”〉. 『汉语学习』, (5), 92-96.

张巍 (2014) 〈转折性话语标记“但是”, “可是”, “不过”的语用功能〉. 『第十五届汉语词汇语义学国际研讨会论文集』, 568-575.

周琳, 邹立志 (2011) 〈“但是”, “不过”和“只是”的程序意义〉. 『西北大学学报』, 41(6), 173-174.

用例出典

BCC コーパス <http://bcc.blcu.edu.cn/>

- 1) 談話連結語は、一般に談話標識 (discourse markers) として知られるが、discourse particlesやdiscourse operatorsなどの呼称も用いられる。名称や定義の詳細はSchourup (1999) およびFraser (1990, 1996, 1999) を参照。本研究ではBlakemore (1987, 2002) にしたがって談話連結語と記す。
- 2) 両者の内容は同様のものであるため、主に周琳・邹立志 (2011) を引用するが、例文など周・邹 (2011) に記載されていない箇所はZhou (2007) を一部引用する。
- 3) 関連性理論における発話理解の解釈の手順 (Relevance-theoretic comprehension procedure) によれば、想定はアクセスしやすいものから順に導き出される (Carston 2002 : 139; Clark 2013 : 36-37)。
- 4) 周・邹 (2011 : 174) の定義によれば、“但是”の手続き的意味は、「A (A'), 但是／但 B」という発話において、“但是”や“但”は、現時点のコンテキストにおいて成立している想定と矛盾する内容を導き、その想定に基づく命題を取り消す」と定義されている。

Procedural Meanings of Chinese Discourse Connectives *Buguo*:
A Relevance-Theoretic Approach

Sakiko AKIYAMA

Abstract

This study examines the discourse connective *bùguò* (不过) in modern Chinese from a cognitive-pragmatic perspective. It addresses the limitations of previous descriptive approaches, which did not fully account for the underlying inferential mechanisms. While earlier research has identified certain pragmatic functions of *bùguò*, a systematic explanation of how these functions emerge during utterance interpretation has been lacking. Using the framework of Relevance Theory, this study reveals that *bùguò* encodes a procedural constraint that partially contradicts the assumption derived from the preceding utterance and the assumption of the subsequent clause, and deletes the former this procedure accounts for the various pragmatic functions associated with *bùguò*, such as topic shifts, focus management, and topic maintenance. Ultimately, *bùguò* is shown to play a role in adjusting the direction of inference during comprehension.

Keywords: discourse connectives, *bùguò*, Relevance Theory,